

# 日本文化の礎

いしづえ



室町時代の人々の暮らしの様子を描いたものに「洛中洛外図屏風」があります。よく見ると、その中に「能を楽しむ人々」の様子が生き生きと描かれています。

これをもとに、次のような学習ができます。

「何をしているところを描いているのでしょうか」

「舞台上、能を演じているところですか」

「この舞台はどんな場所につくられているか、調べてみましょう」

「京都の鴨川の河原でした」

「能を演じている人はどのような人であったか、調べてみましょう」

「河原者といわれて、当時差別されていた人々でした」

このように、河原者といわれた人の中には、能をはじめさまざまな分野で、専門性のある高度な技術を持つ人たちが大勢いました。

この「洛中洛外図屏風」の場面ではありませんが、能を大成した観阿弥・世阿弥(父子)の評判を聞いた三代将軍足利義満は、1374年(応安7年)に京都の今熊神社の神事能でその妙技を見物し、以後父子を厚く加護したと言われています。

今の日本文化を代表する、能、狂言、歌舞伎などは、中世の被差別民衆が生み出した文化であり、このような人々のたゆまぬ努力と活動がなければ発展することはなかったでしょう。

## 参考文献

「人権・同和教育基本資料」平成16年10月 東京書籍  
益城町教育委員会

益城町文化財を訪ねる会  
会長 松野國策

けであった。  
★4月17日夜、木山方に炮聲あり、大風雨(壽賀廻舎日記抄)  
★4月21日晴天、木山付近に当たり大火を見る(隈岡大尉陣中日誌)  
★4月21日朝：下南部村の住家や小屋は悉皆官兵により放火され消失：昼下がり王田の勝平宅など九戸は官軍が放火して焼失(新編西南戦史・陸上自衛隊北熊本修親会編)  
●昭和20年代までは高台の市ノ後の南端にあった「木山松丸城(別名腰尾城)を囲む竹林は台地の東端から西へ松丸城を囲み益城町役場の下まで鬱蒼とした孟宗竹の連続であった。岩村家は当時は現在の量販店の自転車置場の付近にあり、それで焼き討ちを免れたと思われる。●焼け残ったとされる山村家の土蔵と山村家・吉本家・松野家の三家付近は微少地名を木下と言ひ榎や椋の大木に囲まれて烽火に適しなかつたと思われる。●木山町焼失の聞き書きを述べたが「木山付近に当たり大火を見る(隈岡大尉陣中日誌)」とあるように民家焼き討ちの事実は確実にあつたと思われる。

## 町内・御船署管内の事故・事件の発生状況

事故・犯罪区分	発生状況(件)			
	町内		御船署管内	
	2月中	累計	2月中	累計
人身事故	8	18	15	45
物損事故	45	104	152	311
空き巣	0	0	1	5
自販機狙い	0	1	0	1
万引き	0	0	6	6
オートバイ盗	0	0	0	0
自転車盗	0	0	1	2
車上狙い	0	2	0	3

件数は平成27年1月末現在

### 問い合わせ先

役場総務課防災係 ☎ 286-3111

御船警察署・御船地区防犯協会連合会

☎ 282-1110 / ☎ 261 ~ 264

ト内の日本語が不自然な場合なども注意が必要です。  
アダルトサイトからの請求  
性別年代を問わず相談が多いトラブルです。  
インターネットを使用できる端末は携帯電話、ゲーム機、音楽プレイヤー、テレビなど多岐にわたります。子どもに利用させるときは、フィルタリングや保護者のロック機能を十分に活用することがトラブル防止に役立ちます。  
(国民生活センター発行「暮らしの豆知識より」)

### 問い合わせ先

役場住民生活課住民係 ☎ 286-3112

(上益城広域消費生活相談室)